ふくろう新聞

＜発 行＞
特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員会

洲本市中川原町中川原 28 番地 1
TEL：0799-25-8550
FAX：0799-25-8551
ホームページ
http://hyoufuku.main.jp/fukurou/

地域の方と笑顔で！！ 大根祭り今年も

1月24日（金）、今年も地域交流会の方に協力をいただき、平野様より頂いた採れたての新鮮な大根を使って大根まつりおでんつくりを行いました。

朝早くから準備に駆けつけてブロックを積み、火おこしして、慣れた手つきで進めてくださり、あっという間に完了。

入居者様と具材の準備をしている間に餅を焼いて召し上がって頂きました。

具材の準備が完了すると、大きな鍋ごといざ網の上にドーンっと！！

火を絶やすことなく見守り、じっくりと火を通し、おでんが出来上がりました。

今年の大根は豊作で、その中でも丸い形をしたものは甘みが強く、炊けば炊くほどうま味が増し、柔らかく、美味しく頂くことが出来ました。

▶よくしみてるかな

心配していた天気も問題なく、寒さも程よい、大根まつり日和になりました。

朝早くからお集まりいただいた地域の皆様のお陰もあり、今年も無事に終えることが出来ました。

「美味しいわ～」と仰る地域の皆様の笑顔と、入居者の笑顔を見ることができたことは、私たち職員の活力であり、地域共存の大切さを感じる時間となります。

貴重な時間をいただきましたこと、心よりお礼を申し上げます。

ありがとうございました。

（栄養調理　山本　藍菜）

▲美味しくできました

▼火起こし準備中の様子

一月一日未明、夜勤職員に看取られて、入居者の西内千鶴子様がお亡くなりになりました。西内様は生前より、「私が死んだら愛媛にあるお寺で永代供養してね。手続きはできているから。」とおっしゃられていました。一月二九日、職員の手で、ご高齢のおば様立会いのもと、愛媛のお寺に納めさせていただきました。

節分

昼食に毎年恒例の巻きずし作りをしました。

自分で巻ける方にはご自身で巻いて頂きました。

女性入居者の方たちは、慣れた手つきで綺麗に巻き、男性入居者は、職員がお手伝いをして一緒に巻きました。

皆さん、お寿司が好きなので美味しいと満足されてました。

午後からは豆まきではなくボール投げをしました。鬼に向かって本気でボールを投げて笑顔が多く見られました。

▲慣れた手つきの宮崎さん

▼鬼やぶれたり！！

▼鬼に向かってエイッ

とんど焼き

1月15日（水）に今年も地域交流会の平野様のご協力のもととんど焼きをすることが出来ました。当日は地域交流会会長の沖田様の参加も得ました。入居者の皆様に、松、注連縄が消えていく様子を見ていただき、今年1年の無病息災を祈念しました。

入居者の梅田さんは「昔お父さんが正月飾りを神社に持って行って燃やしてもらっていたことを思い出した」と話してくださいました。

地域の皆様と一緒に、入居者のみなさまに、季節の行事を体験することで時節や昔を思い出していただける取り組みにしたいと思います。

（生活援助員　神代　雅司）

◀燃え行く様子を見守ります

ふくろう物語　門　輝子様

門様は昭和11年12月24日生まれで、現在82歳になられます。

ふくろうの郷には3年前に入所されました。

出生地は一宮町江井。現在の淡路市に当たります。遠田へ嫁ぐことになり引っ越しされました。

家族は夫、長男様とお孫様がお二人おられます。夫は門様が60歳目前の時にお亡くなりになられています。時々、お嫁様とお孫様が会いに来てくださいます。その時間の門様は穏やかな表情をされ、楽しまれている様

玉ねぎ、レタス、ミカン作りなど努力を重ねられ

嫁ぎ先は専業農家をされており、夫、父、祖母の三人でお米だけにとどまらず、玉ねぎ、レタス、スイカ、ミカンを作って生活しておられました。

農業を頑張っておられた結果長男様が4歳の時に母屋を建て替え、その10年後には長屋も建て替えられたと話してくださいました。

33歳で体調を崩された時でも「病気なんかするものぞ」と同地域の同じ農家さんと共に張り切って、農作業に精を出されました。作り、売り、生活をさらに豊かにしたいと言う強い気持ちがあったからこそ、できたのだと話されます。

息子様からも、負けん気が強く、勝気なタイプの母親で農業一筋で生きてこられたと話されていました。

夫と死別されてからは祖母との二人三脚で出来る範囲で農業を頑張ってこられたそうです。その後、認知症が進み自宅でのお世話が難しくなりケアホームに入所されていました。

▲穏やかな表情をされています

その後は病院に入院され、リハビリを重ねていた時に、認知機能訓練で歌を聞くのが好きだったようで、ふくろうの郷でも歌を口ずさむ時があったようです。

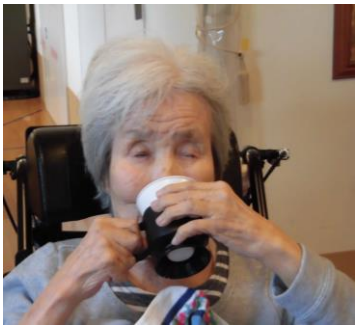
これからの生活

現在、ふくろうの郷の星ユニットで穏やかに生活されています。

新たに発見した歌好きの面を活かし、居室で音楽を流し、生活の安定を図ることができれば、門様にとって気持ちよく生活ができるのではないかと思います。

体調が安定している時には食事、事や移乗時に声をお掛けすると、「ありがとう」と、お言葉が返ってきます。

また、綺麗好きなところもあり、口周りが気になるとタオルやおしぼりを持ちご自分で拭う様子が見られます。



▲コーヒーを楽しまれています

食事面では、嚥下調整食を召し上がっておられます。

声掛けをして食事モードに切り替えを働きかけています。匂いを嗅いで風味を感じて頂きながら、スムーズに食べていただけるように栄養調理係と共に協力し合い、支援していきたいと思います。

（生活援助員　石黒　裕規）

褥瘡予防研修

～入居者の生活のためにできることを目指して～

ふくろうの郷では、毎月職員を対象とし、入居者様の快適な生活の為の研修を実施しています。１２月２４日（火）、淡路ふくろうの郷にて褥瘡予防研修を行いました。(株) モルテン様に来所していただき、予防に繋がるマット、クッションの負担の少なさを体感しました。ありがとうございました。今後の生活に活用できるよう努力していきたいと思います。

▲マットレスの圧力負担の少なさを実感しました

【職員の感想】

長時間座っている人が多く、自分で体を動かすことができない人が自動的に体圧を分散させてくれるのは、身体への負担が軽減されるのはすごく良い。

実際に使ってみて入居者の気持ちに近づくことができました。

親睦深めた新年会

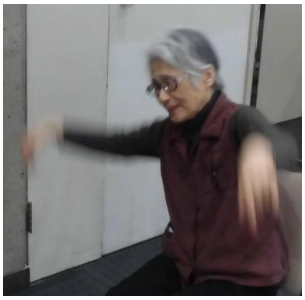
毎年、新年を祝いながら、親睦を深める事を目的に淡路聴力障害者協会（淡聴協）の新年会に参加をしています。淡路ふくろうの郷から10名の入居者が参加しました。

今年は五色のウエルネスパークで開催され、美味しいおせち料理を目と舌で味わいながら、参加者の方と親睦を深めました。アトラクションでは盲ろう者の方も一緒に楽しむことが出来るようにと、「翼をください」の歌詞に合わせて参加者は思い、思いの翼を表現する中に、藤本紀代さんは本当の鳥のように、腕をしなやかに羽ばたかせていた姿が、とても印象的でした。

歳男である八木さんは、淡聴協よりプレゼントを頂き、同障者でもある歳男の奥井大様とお会いし、触手話等での会話も楽しまれ、とても喜んでおられました。

入居者、淡聴協の皆様の素敵な笑顔を見て、今年も沢山の笑顔があふれる一年となるように、一緒に過ごしていきます。

（生活援助員　杉浦安桂美）



▲鳥のように羽を広げる藤本さん

ふくろう喫茶

開店と同時に満員御礼

毎月第三水曜日に喫茶店の雰囲気でおやつを楽しんで頂く、と言うコンセプトのもと「ふくろう喫茶」を開催しています。ユニットの入居者を案内し、お好みの席についていただきます。ウエイトレス、ウエイター（兼、職員）が飲み物の注文を伺い、「本日のおすすめスイーツ」と一緒に提供します。

食べる場所や環境が変わるだけで、こんなにも楽しみにしていただけるのかと驚くほど、入居者のある方はパリッとスーツを着たり、エレガントなお帽子をかぶられるなど、いそいそと来て下さります。本日も大盛況でお開きとなりました。（生活援助員　堀田喜子）

◀喫茶を楽しむ川村さん（左）と宮崎さん（右）

看取り介護研修会を実施しました！

1 月 28 日（火）職員全体会議にて「看取り介護研修」を行いました。この研修では毎年、この一年のお看取り対応をさせていただいた入居者の方を偲ぶきっかけにもなっています。

今年は、6 名の方を淡路ふくろうの郷でお看取りさせていただきました。これまでのお看取りでは職員も人の死に向き合う経験がなく、「こわい」とか「お看取りにあたるのが嫌だ」という声が多かったですが、今年度は「入居から最期まで関わりたかった」などの声も聞かれ、また、実際の夜間でのお看取り時には夜勤者みんなで協力して落ち着いて対応でき、その場面に立ち会えなかった家族様にもその時の様子をお伝えすることができるなど、職員の人として専門職としての成長を感じられました。

また、終活をされた方もおり、事前に自分の亡くなった後のことを一緒に考えて永代供養を決めたり、また最後のその時が迫っている方と一緒に居室の荷物の整理や棺に入れてほしい写真や洋服を選んだりできるようになってきました。

これからも入居された日から「人生会議」を重ねて、日頃のコミュニケーションを通じて入居者さんが大切にしてきたことを最期のその時まで大切にしてもらえるように支援していきます。

（健康看護係　主任　渋谷裕子）

【職員の感想】

亡くなられた方々をスライドで紹介してその時の様子や思い出を職員で共感できたのが良かった。看取りについてより具体的に考えられる機会となった。

身の引き締まる思いでした。特に最後のその人が最後まで大切にしていることを職員が最後まで守るという言葉が印象に残っています。自分自身の課題として仕事をしていきたい。

淡路聴覚障害者センター便り

洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館３階

第２の人生を おのころの家で

仲間とコミュニケーションできる楽しさ・安心感

▲通所仲間と談笑する赤井さん（右端）

赤井良次さん（63 歳）は神戸聾学校高等部を卒業後、しばらくは兄の仕事を手伝っていましたが、友人からの紹介もあり一般企業に就職し、32 年間働かれました。27 歳の時に結婚し、2 人の息子さんにも恵まれました。スポーツが得意なこともあり、少年野球の指導も引き受けるなど奥さんともども子育てに励まれました。

しかし職場ではコミュニケーションがとれないことから体調不良が続き、定年を 1 年残して退職せざるを得なくなりました。赤井さんは困るとセンターに来られ職場の悩みや不安を相談されていました。退職後はいくつかの仕事に就くもやはりコミュニケーションが壁となり長続きしませんでした。その後就労継続 B 型事業所「おのころの家」への通所を始めました。

■何よりも手話で話せる喜び

最初は慣れない農業の仕事で心身共に疲れもあり続けられるかどうか心配されましたが、仲間の励ましや、他の通所者が頑張っている様子をみて自分も頑張らねばと気持ちが変化し、また何よりも手話で話せる楽しさから、もっと通いたいと通所日も当初の週 1 回から 5 回へと増えていきました。仕事の幅も増えていきました。

赤井さんは「ここでは仲間といつでも手話でコミュニケーションがとれてうれしい」「わからないことも手話で説明してもらえる」と話されます。

今、ここには体調が悪いと悩み続けた赤井さんではなく「仲間とずっと一緒に働きたいと自信をもって笑顔で語る赤井さんがいます。

▲塩の選別作業に励む赤井さん

ワンチーム目ざして

第 33 回全国ろうあ者相談員研修会・第 24 回全国職業安定所手話協力員等研修会兼ろうあ者労働フォーラムが 1 月 24・25 日、大阪府浪速区民センターで開催されました。

ろう相談員と手話協力員、ろうあ団体で労働問題に取り組む役員さんたちが一同に会しての研修会です。

生活問題、労働問題を総合的にとらえないと問題解決には至らないと 3 年前から合同での研修会となりました。行政や他の専門機関も巻き込んで「ワンチーム」として連携をとり、情報交換、協力しあうということが重要となっています。

様々な事例を通して、グループ討論し結果発表という形で進められました。資源や人材、地域での取り組み差、制度の壁などがありますが、参加者は真剣に討議しあい、パワーをもらえ充実した 2 日間でした。（吉川・辻）

シルウォッチシステム 寄贈いただきました

聞こえない人の生活を便利にするための装置、聴覚障害者用屋内信号装置（シルウォッチシステム 16 万円相当額）を千里情報センターから寄贈していただきました。訪問や火災、呼び出しなどを時計型の機器で知らせてくれる便利なものです。聴覚障害者日常生活用具として市に申請できます。学習会の教材や聞こえない方の相談に使わせていただきます。

中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンター

兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2
〒656-0002
TEL　0799-28-0990
FAX　0799-28-0992

手話サークルと一緒にお餅作りを楽しめました

1月16日(木)、今年初めての手話サークルとの交流会は、新年ということで、みんなでお餅を作りました。

もちつきは餅つき機にお任せして、つきあがったお餅を各班ごとに取り分け、丸めておいたあんをつつみ、あん餅を作りました。初めて作る人も多かったようで、うまく丸まらなかったり、あんがはみ出したりとハプニングもありましたが、みんな和気あいあいと楽しく作ることができました。できあがったお餅を食べながら、サークルのみなさんとのおしゃべりに花が咲いていました。

3月には採れたてのわかめを使ったクッキングも恒例となっています。また、レクリエーションを通して手話を教えてもらったり、生活のことなど気軽に話せる場となっています。今年もこうした交流が続いていくことを楽しみにしています。

おのころの家でも今年も健康に気を付けて、仕事に交流にと励んでいきたいと思います。

（支援員　山本）

出店内容や詳細は、上記のチラシやふれあいだよりでご案内しております。

お子様向けのゲーム等家族で楽しめるも企画中ですので、是非お越し下さい。　（濱田）

「洲本市ふるさと納税返礼品」の声

昨年５月から、洲本市よりふるさと納税返礼品（淡路特産玉ねぎ、手づくりのポーチ・猫の小物入れ、おのころ屋のクッキーセット、パウンドケーキセット）を依頼されています。クッキーセットは返礼品の注文が年末年始に多数ありました。

- 淡路特産たまねぎ　４５件
- 手作り品　７件
- クッキーセット　５５件
- パウンドケーキセット　８件

返礼品数
(2020.1.31 現在)
計　１１５件

～お礼の品や自治体への感想２件～

「お得感から寄付を決めましたが、きれいにラッピングされた状態の大きな箱が届き、開けた瞬間かわいく並んだクッキーに嬉しくなりました。食べてみると、本当に手作り感満載の素朴な味で、私が大好きなお味でした。会社で配ろうかと思っていたのですが、１人で食べきってしまいそうです。無添加なので賞味期限が短いですが、その分すごく安心感があります。おすすめします。」

「入金してから 10 日程度で届きました。想像していたよりもボリュームがあり、クッキーもおいしかったです。これはお得だなと思いました。ぜひ来年もお願いします！」（ふるさと納税より情報）

神戸事業所
共同作業所 神戸ろうあハウス
神戸ろうあハウス デイサービスセンター
〒652-0897
兵庫県神戸市兵庫区駅南通 5－4 西高架下 16 号
TEL & FAX：〇七八・五七九・〇七五五

難聴デイサービス開始より半年経過して

ここのところ難聴デイへの問い合わせや見学が続いています。

そんな中、神戸市の担当者が来られ、利用者さんの様子や支援の方法を、また、利用者さんの感想など聞かれて帰りました。

感想の言葉を聞かせていただくにつけ、日増しにデイサービスの必要性を実感します。

利用者さんがもっともっと笑顔になれるよう、創意工夫で進めていきたい、利用者さん達のニーズを受け止め試行錯誤を繰り返しながら より良いデイサービスを目指していきたいと痛感しています。

神戸事業所　神戸ろうあハウス
デイサービス　眞木崇江

デイサービスに来ると、同じ障害を持つ仲間がおり、生活の中の困ったことを聞いてもらえる。

本当に気持ちが落ち着く。

新しい施設が建ったらそこへ行きたい。

細やかに筆談支援してくれる。

▲笑顔溢れる活気あるデイサービス

元気をいただくことができる。

新長田の新しい施設に難聴デイはできるのか。

食事が楽しみで、家でも参考できる

「自分の居場所」だと思う。

ある日突然聞こえなくなり、泣いて過ごした日々、現状を受け止められずに「人生が終わった」と思った苦しかった時の話など人には言えない悩みを皆さんが聞いてくれる。

2月・3月ふくろうの暮らし

2/18(火)	ふくろう大学　絵手紙
	おのころ屋パン販売
2/19(水)	ふくろう喫茶
2/21(金)	カクテルバー
2/26(水)	中川原地域独居老人食事会
2/28(金)	料理講座・回想法
3/ 2(月)	ふくろう散髪
	おのころ屋パン販売
3/ 3(火)	誕生会・演劇講座
3/ 7(土)	手話講座
3/11(水)	カクテルバー

神戸施設建設募金
目標　1 億円 !!

2020.2.3 現在　募金合計額　74,588,090 円
（プレート募金 229 人）

目標 1 億円まで、あと　25,411,910 円